

# スクラム

～ 立志・挑戦・感動～

## 浮羽中学校学校通信

第14号(6月10日発行)  
文責 校長 高倉 満

### 学力向上そして部活動に大切なのは



みんなもよく知っているイチロー選手。日米通算安打数で世界記録を樹立したことは世界中を興奮させました。惜しまれながら今年引退をしました。今までの活躍の裏には「**凡事徹底**」(あたりまえの事を毎日やり続ける)自分に負けない強い心がありました。

奥村幸治さん(宝塚ボーイズ監督)の話より。

継続する力・・・一日なら誰でもできることを、徹底して毎日やり続ける。ある時、イチロー選手にこんな質問をしたことがあった。「今までにこれだけはやったな、といえる練習はある？」彼の答えはこうだった。

「僕は高校生活の三年間、一日たった10分ですが、寝る前に必ず素振りをしました。その10分の素振りを一年365日、3年間続けました。これが誰よりもやった練習です。」プロに入り、2軍でプレーしていたイチロー選手は、キャンプ期間中、夕方に練習を終えると早々に眠りに就いた。そして皆が寝静まる深夜にこっそりと部屋を出ると、室内練習場で数時間の特打をするのを日課としていた。私は現在、少年野球チームの監督を務めているが、例えば野球の上手な子にアドバイスをすると何をやってもすぐできるようになる。下手な子はなかなか思うようにいかない。ところが、できるようになったうまい子が、いつの間にかその練習をやめてしまうのに対し、下手の子は粘り強くそれを続け、いつかはできるようになる。そして継続をすることの大切さを知っている彼らは、できるようになった後もなお練習を続けるため、結局は前者よりも力をつけることが多い。その点、イチロー選手は卓越したセンスを持ちながらも、野球の下手の子と同じようなメンタリティを持ち、ひたすら継続を重ねている。継続する力、つまりルーティン(毎日やること)を大切にしている。これこそが彼の最大の力になっている源だろう。

《イチロー選手》の言葉

◇頑張れば何とか手が届くところに目標を設定する。  
目標は高くし過ぎると絶対ダメなんです。必死に頑張っても、その目標に届かなければ、あきらめたり、挫折感を味わうでしょう。それは目標設定のミスです。頑張れば何とか手が届くところに目標を設定すれば、ずっとあきらめないでいられる。そういう設定の仕方が一番大事だと僕は思います。

自分で目標を持ち、それに向けて継続を怠らなければ、必ず次の段階へと自分を押し上げていくことができる。浮羽中も個人の目標はもちろん、学級目標や生徒会スローガン、体育祭でやれたように学校全体がチームとして同じ目標に向かって協力し合い、全力で努力を継続していけば、確実に成長していくことができます。

こうした努力は、人生を生き抜く力にも必ずつながっていると考えます。イチロー選手のように自分にとっての明確な目標を持ち、クリアすべき課題を時間に関係なくやり続ける姿勢に私たちが学ぶべき事は多いと思います。期末考査や中体連ブロック大会に向けて、日々の努力の継続を大切にしていきましょう。

◇うきは市青少年弁論大会 \*時間があれば応援に来てください。

6月23日(日) 会場:かわせみホール(浮羽町) 開会13:30

弁士	1年生	藤川裕有くん「自分たちにできること」
		尾花彩巴さん「この美しいうきはの町で」
	2年生	南 心暖さん「平和な世の中へと」
		橋本理央さん「高齢者の決断」
	3年生	三善友梨さん「生きやすい世の中のために」
		橋本昊樹くん「必ず星を挙げる」